

令和7年度 第3回 見附市まちづくり総合審議会 議事概要

I. 開催日時 令和7年9月1日（月）午後2時00分～午後3時40分

II. 開催場所 見附市役所4階 大会議室

III. 出席委員 渡邊 誠介委員、原山 義史委員、星野 和孝委員、大坪 重雄委員、
徳橋 功委員、小林 正和委員、坂下 裕之委員、木澤 宇弘委員、
重信 元子委員、鈴木 孝子委員、結城 愛美委員、佐藤 宏子委員、
本間 唯莉委員、神 友里委員、岡山 せい子委員、平山 義孝委員
(出席者16名/委員18名)

IV. 会議の概要

1. 開会

2. 会議の成立

【事務局】

出欠報告委員の過半数が出席していることから、見附市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。

3. 前回の審議会を受けての報告

【事務局】

第5次総合計画の実績一覧につきまして、策定時からこれまでの推移がわかると理解が深まるのではないかとご意見をいただいた。今回配布したものは、実績に令和3年から令和5年の数値を落とし込んだものになる。現在の計画策定時は、令和2年度でありコロナ禍の影響で実績値の変動が激しい年になっており、令和6年度の実績値が回復傾向にあるのか、下降が続いているのかを知っていただくための推移がわかる資料として配布したもの。

また、実績値の評価方法についてご意見をいただいた。お示ししている評価の方法が、令和6年の実績値が目標を達成している場合は二重丸、目標を達成していないが基準値よりも数値が向上している場合は丸、目標達成していないが基準の数値を維持したものが三角、目標を達成しておらず、数値が悪化しているものはバツとしている。このうち丸としているものについて、目標と乖離があったとしても、前回よりも数値が向上していれば丸と評価されているため、市民の方が誤った認識をしてしまいやすいのではないかとのことだった。

この点は、今までの評価をこの基準で行っており、まちづくり総合会議で審議している関係上、このままとさせていただきたい。しかし、市民の皆様にお示しする際には、誤解を招かないように説明を加えたいと考えている。

また、現在策定している第6次総合計画においては、この評価の基準を再検討及び、必要に応じて見直しをしていく。

【渡邊会長】

本日は情報量が多く、説明も多いと思うが施策の柱の部分を皆様のところでご審議いただければと思っていますのでよろしくお願いいたします。

4. 議事

（審議会条例第6条第1項に基づき、議事進行は渡邊会長へ）

（１）「基本理念」「都市の将来像」（案）について

（２）「計画体系」（案）について

【事務局】

資料１、資料２に基づき説明

【渡邊会長】

議事（１）（２）についてご質問、意見等いかがか。

【小林委員】

アンケートなどの評価が高いこともあり、今まで進めてきた方向性をすべて変えたわけではないと思うが、変わった場所や付け加えた場所を教えてほしい。

【事務局】

新しく加えた部分としては、まず結婚支援になる。これまでも事業は行っているが総合計画の中に記載してはいなかった。今後、人口減少、少子高齢化に向き合っていくためにも、力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

もう一つは若者に選ばれる、活躍できる環境づくりといった部分になる。今までのまちづくりは全ての世代が対象ではあったものの、健康をもとにするものが多くどちらかというと高齢者向けの施策が前面に出るものとなっていた。第6次総合計画では、子育て世代や若者に選ばれる、活躍できる取組を今後は強力に進めていきたいと考えている。

その他も変更したところはあるが、大きな部分としてはこの二つになる。

【木澤委員】

つい先日、大きなイベントを行った。多くの方から参加いただき大変好評だったが、事業をやるにあたって予算や人手の確保に苦労をしている。基本目標の中に市民・地域コミュニティの活動支援とあるがどういった支援を考えているか。

【事務局】

地域コミュニティについては交付金以外に、市の職員がサポーターという形で張り付いている。サポーターは、コミュニティによって期待される役割が少し違うかもしれないが運営を支えるような活動をしている。委員が言われたとおり、予算や人手が足りないなどが実情かと思われますので、地域コミュニティに限らず活動支援を今後検討していきたい。

【鈴木委員】

サポーターについて、正直なところほとんど来られていないし、話し合いのような場面はなかった。設立年、環境等が違うので地域コミュニティ間で格差が生じても仕方がないが活発に活動されているところがあれば、共有していただきたい。

【重信委員】

計画体系について、縦軸横軸とあったがどういう関係か分かりやすく整理したものを聞かせてほしい。

【事務局】

基本的な体系的の整理としては、第5次総合計画を踏襲している。横断的な視点(横軸)については、一つの目標・施策に限らず、様々な施策に横断して取り組むべき視点ということで、横軸という表現をしている。今回、体系表は、お示しできていないが、新しい計画にも体系づけを分かりやすいような形で整理したいと考えている。

【佐藤委員】

コンパクトシティについてネガティブなイメージがあるのではないかと。言葉をそのまま受け取るとこじんまりしたイメージになるのではないかと。

【事務局】

行政の視点からだと、人口減少社会において市を持続させていくための一つの強みになるのがコンパクトシティだと思っている。人が広く、点在して暮らしていると、例えば交通手段などを考えてみても経費が多くかかってしまう傾向がある。そういう意味では、コンパクトシティであると結果的に行政運営がしやすくなり、市民の方にとっても暮らしやすさに繋がっていくと考えている。

【渡邊会長】

都市計画の中でコンパクトシティにあまり産業を包括してもらえないことがある。見附市はコンパクトシティであって産業もある程度、充実している。若い人たちの就業につながるような形で展開出来たら素晴らしいなと思っている。

【徳橋委員】

自治体の維持する、あるいはより一層うまくやるというのは思いのほか難しいのだと思う。コンパクトシティは非常に有効だと思うが、一方で市民目線になったときに豊かな世界感とはかけ離れてしまうようなイメージでとらえられてしまう可能性がある。そうなるとすごく残念だと感じる。

また、山口県にある有名な日本酒があるが、すべてではないが見附産の米を使っている。県内の方にそういったことを説明して送ってあげたところ猛烈に喜ばれた。都市部と中山間地域、それぞれの役割で魅力を伸ばすことが見附の魅力づくりにつながっていくと思う。

【大坪委員】

農村地域はたしかにこどもの数も減っていて、高齢化も進んでいる。農地の集積化・集約化が進むほど農村集落の維持が難しくなっているとも感じている。空き家、空き地も増えていく中で、不動産業界との連携は重要かと思う。

【星野委員】

見附は交通の便が良い。県内に来る営業は見附を軸として上越、下越に向かっている人もいと聞いている。そう意味ではポテンシャルをもっている。見附の地の利を活かしたものをもっと発信できていければ良いのではないかと思う。

【本間委員】

次期総合計画の計画体系は若者、子育て世代にフォーカスしてくれているうえ、順番としても早いところに位置付けている。こういう視点が極めて重要だと捉えているということの良いか。

【事務局】

そう捉えていただいて問題ない。他の世代に対する取り組みも進めていくが、中でも力を入れて取り組んでいきたい。

【結城委員】

コンパクトシティというキーワードであるが、横断的な視点の中の誰一人取り残さないという視点との矛盾があると感じる。また、農地であれば棚田バンク、地域団体であれば人材バンクなど、市民だけでなく、市外、県外の人材活用を積極的に進めていくべきだと思う。

【原山委員】

都市の将来像とあるが「みつけ」の将来像に替えた方がよいのではないか。

【事務局】

都市をみつけとして修正したい。

【岡山委員】

コンパクトシティの表現の仕方で、もっと魅力的な名前があればよいのではないかな。

また、こどもや子育て世代はお祭りが好きな人が多い。いろんな人を巻き込んで、見附市はお祭りがいっぱいあるから楽しいというような感じになると良いのではないかな。

【渡邊会長】

資料1の基本理念「魅力たっぷり 未来につなげる みんなのみつけ」については、これでよいかな。

【重信委員】

魅力、未来、みんなと頭文字「み」で統一して、意識しているようであれば、そこを強調していくと良いのではないかな。

(その他、異議なし)

【渡邊会長】

資料1の都市の将来像「笑顔あふれる暮らし満足 No.1 ひとつにつなげるコンパクトシティ」については、議論の中で、「みつけの将来像」とした方がよいという意見が出たが、それで良いかな。また、本日様々な議論になった「コンパクトシティ」について、その説明のところで、単にまちなかに集約していくことではない、合理主義で削減していくことではないといった、表現の仕方を工夫する方向で考えてもらいたい。本日の議論を踏まえて事務局より修正してもらうということで良いかな。

(異議なし)

【渡邊会長】

資料2の第6次総合計画「計画体系」(案)の横断的な視点(横軸)の①現役・次世代を取り込む魅力の創造・発信、②市民の誰ひとり取り残さない、③健やかで幸せな暮らしを支える環境・仕組みづくり、④あらゆる力を結集する(ソーシャルキャピタル&DX)の4点、それから基本目標(縦軸)の①活力とにぎわいあふれるまちづくり、②未来を担う人を育むまちづくり、③安心していきいき暮らせるまちづくり、④未来に向けて持続可能な市政運営(安定的な行財政経営)の4点について、この通りで進めていくということで良いかな。

【神委員】

スマートウェルネスの観点だと高齢者向けというイメージ強い。子育て世代や若者世代には身体づくりの観点だけでなく、食の観点とかもはいつてくると良いのではないかなと考える。

【事務局】

検討していく。

(その他、異議なし)

5. 報告

(1) 「みらいを語るふれあい懇談会」実施状況について

【事務局】

資料3に基づき報告

6. 閉会

【事務局】

次回会議は、11月4日(火)午前10時からを予定。資料について改めてご案内する。

以上